

こんにちは。
町長です。

1期4年間を振り返って



私は、平成29年(2017年)10月30日から小鹿野町長に就任し、来る10月29日で4年間の任期が満了となります。

この4年間を振り返ってみますと「光陰矢のごとし」と申しますが、あっという間に過ぎてしまったように感じます。そして、私が町の将来像として描いた「文化の香り高く、小さくともいきいきとした小鹿野町の創生」の実現のために町民の皆様のご協力をいただき、一步一步着実に町政の舵取りに取り組んでまいりました。

私の政治信条に掲げる町民ファーストの町政推進や町民との対話を重視した、開かれた公平・公正な町政を推進するため、各地区での町政懇談会の開催をはじめ政策審議会の開催など町民から多くの声を聴き、それを施策に結びつけて行く政治スタイルをとってきました。

私の政治信条に掲げる町民ファーストの町政推進や町民との対話を重視した、開かれた公平・公正な町政を推進するため、各地区での町政懇談会の開催をはじめ政策審議会の開催など町民から多くの声を聴き、それを施策に結びつけて行く政治スタイルをとってきました。

そうした町民の声を聴く中で、子育て支援には特に力を入れてまいりました。安心して産み育てられる子育て支援として住民生活課内に子育て包括支援室「ほっとママステーション」を設置し、ワンストップで対応できる体制を整備いたしました。また、少子化の中で幼児の保育教育を充実するため、埼玉県下の公立では初めてとなる幼稚園と保育所の両方の機能を合わせ持つ幼保連携型の「おがのこども園」の開設をはじめ、子育て支援金では第三子以降を増額し50万円を支給(分割)させていただきました。更に、高等学校に通う生徒の支援としてバス鉄道通学定期券購入費の一部補助を新設いたしました。

教育環境の整備では、小・中学生全員へタブレット端末を配備し、高速大容量の通信ネットワークを一体的

に整備する「GIGAスクール構想」を推進しています。

防災体制の整備では、防災行政無線のデジタル化を推進し、各家庭へ戸別受信機を配備いたしました。

空き公共施設の利活用推進では、旧埼玉県山西省友好記念館をクライミング施設に再生し、山岳・クライミングによる町おこし事業を推進するとともに、旧バイクの森、旧西秩父農林産物直売所、鳳鳴館を民間事業者に貸し出し再利用をしていただき地域活性化を図っています。

小鹿野町役場小鹿野庁舎は耐震性や老朽化等の課題を有していたことから、町の防災拠点となる小鹿野町役場新庁舎の建設事業に着手いたしました。建設に当たっては町有林を活用した木造で、高气密・高断熱の建築として環境性能に優れた建物で、町民が気軽に訪れることができる町民に開かれた役場庁舎にしてまいります。

地域経済の推進母体となる「株式会社地域商社おがの」を立ち上げ、国民宿舎両神荘などの町の観光施設の経営や、地域資源・製品のマーケティング・ブランド化、6次産品開発などに取り組み、町の「稼ぐ力」を高めるものとします。

以上申し上げましたような多くの施策を展開してまいりましたが、この約1年半は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、コロナ対策に重点が置かれてまいりました。コロナ禍の中、町民の「命と暮らしを守る」ことが、小鹿野町にとっては最も大きな命題となります。

結びに、この4年間の町政推進に格別のご支援ご協力を賜りましたことに深甚なる感謝を申し上げます。

小鹿野町長 森 真太郎